

目次 Contents

- | | |
|---------------------------------------|------------------------|
| 3 男女共同参画のつどいinしもつけ | 17 下野薬師寺歴史館からのお知らせ |
| 4 プレミアム付き下野市共通商品券 | 18 Let's SPORTS |
| 5 低所得者・3歳未満子育て世帯の方に
プレミアム付商品券 | 21 国民年金だより |
| 6 Shimotsuke-City Topics まちの話題 | 22 図書館だより |
| 9 生涯学習 だより | 24 環境トピック |
| 10 下野市立地適正化計画を策定しました | 26 障がい福祉瓦版 |
| 12 保健だより Health Information | 27 暮らしの情報 |
| 14 新・下野市風土記 | 42 7月のカレンダー |
| 15 しもつけの夏 花火・まつり | 43 国際交流員カロリンのコラム |
| 16 しもつけ風土紀の丘資料館からのお知らせ | 44 イベントカレンダー |

今月の表紙 天平パークでゴーアウト

6月1日に天平の丘公園で、外遊びの魅力を体感してもらおうと、「天平パークでゴーアウト」が初めて開催されました。

地域おこし協力隊の大坪さんが企画したイベントで、ブラジルの格闘技カポエイラをはじめ、ボクササイズ、わくわくエクササイズ、スラックライン、自力整体、ボール遊びといった、日常では体験することのできない6種類のアクティビ

ティーが用意されました。初心者向けのアレンジがされていて、音楽に合わせて行うことで、子どもから大人まで公園遊びを楽しく満喫することができました。

今後も天平の丘公園では、親子向けのイベント、自然や歴史を活かした催しなどを提供していきます。

イベント情報は、Facebookで「下野市地域おこし協力隊」で検索してください。

今月の何の日 7月1日 童謡の日

1918（大正7）年のこの日、日本で初めての児童文芸誌「赤い鳥」が創刊されたのを記念して、日本童謡協会が制定しました。

「赤い鳥」は、小説家・児童文学者の鈴木三重吉が、子どもの純粋な感性を育むための歌や物語を世に広めたいと発刊しました。創刊号には芥川龍之介、有島武郎、泉鏡花、北原白秋などの作品が掲載されました。関東大震災などによる休刊を挟みつつも、鈴木三重吉が1936年に亡くなるまでの18年間に196冊が刊行され、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」、「杜子春」、国語の教科書でもおなじみの、新見南吉の「ごん狐」などの名作が発表されました。

童謡を担当した北原白秋は、自作の童謡詩を寄稿するだけでなく、投稿される作品の選定も行いました。

当初は詩としての童謡を掲載していましたが、西條八十の「かなりや」に合わせて成田為三が作曲した楽譜を掲載したところ大評判となり、以降、旋律のついた歌としての童謡が掲載されるようになります。

この頃、「赤い鳥」に刺激され、子ども向けの雑誌や童謡雑誌が数多く出版されるようになり、童謡の黄金時代とも呼ぶべき大きな流れとなりました。北原白秋の「揺籃のうた」、「この道」、「あめふり」、野口雨情の「七つの子」、「青い眼の人形」、「シャボン玉」、中村雨紅の「夕焼け小焼け」、三木露風の「赤とんぼ」など、この時代に生み出された数々の名作は、100年たった現在も変わらず歌い継がれています。

幼かった日々をふりかえり、なつかしいメロディを口ずさみたくなる記念日です。

■人口と世帯（6月1日現在）

人口／60,122人（+41）、男性／29,822人（+5）、女性／30,300人（+36）、世帯数／24,155世帯（+36）

